

令和4年第4回

幸手市教育審議会会議録

招 集 期 日	令和4年8月29日（月）午後1時30分					
開 会 場 所	幸手市役所本庁舎 3階 第1委員会室					
開会の日時・宣告者	令和4年8月29日（月）午後1時30分				森 祥一	
閉会の日時・宣告者	令和4年8月29日（月）午後2時55分				小林 学	
議 長	森 祥一（会長）			議長代理	小林 学（副会長）	
委員出席状況	議 席	氏 名	摘 要	議 席	氏 名	摘 要
	1	出井 保信	出席	1 1	細井 孝	出席
	2	稲垣 仁美	出席	1 2	松田 光男	出席
	3	井上 弘江	欠席	1 3	松本 佑季子	出席
	4	大村 真樹	出席	1 4	眞中 千穂	欠席
	5	小川 聖子	欠席	1 5	三柴 幸一	出席
	6	小曾根 昌雄	出席	1 6	宮田 充	欠席
	7	木村 麻子	出席	1 7	森 祥一	出席
	8	木村 則之	欠席	1 8	山下 治郎	出席
	9	小林 学	出席	1 9	山本 太輔	出席
	1 0	竹内 徳望	出席	2 0	渡邊 千穂	欠席
議事参与者	職 名	氏 名		職 名	氏 名	
	教育部長	小林 秀樹				
	総務課長	服部 道春				
	学校教育課長	堀越 成夫				
書 記	大竹孝典・関口智章			傍 聴	0人	

会議事件名	顛末
<p>1 開 会 午後1時30分</p>	<p>森会長 開会を宣する。</p>
<p>2 前回会議録の承認</p>	<p>森会長 前回会議録の承認を求める。 《承認》 全員異議なく承認。</p>
<p>3 会議録署名委員の指名</p>	<p>森会長 議席番号7番の木村委員と議席番号10番の竹内委員に署名をお願いする。</p>
<p>4 議事 (1) アンケートについて</p>	<p>事務局 アンケートについて、資料により説明する。 《質疑》 委員 前回の会議で、1学級当たりで望ましいと思う児童・生徒数を伺う設問については、自治体の裁量で人数を決定できないことから削除したほうがよいとの提案があったが、私は、実現不可能でも伺う必要があるのではないかと思う。 例えば、東中学校の生徒数は少ないが、3年生になると身体が大きくなって教室が狭く感じるし、コロナ禍で密になるのは良くないと思う。 実現の可否は別にして、子どもや保護者の希望を伺う必要はあるのではないか。 事務局 御指摘の設問だが、自治体の裁量で1学級当たりの人数を決定できると回答者が勘違いする可能性があるとの御意見をいただいたことから、事務局で再考し、1学年当たりの学級数を伺う設問に統一したところである。 この審議会では、小・中学校にとって望ましい学校規模</p>

の基本方針を定めていただきたいことから、その根拠となる資料ということで、この設問に統一したものである。

委員

学級数も、例えば東中学校で3学級が望ましいという回答があっても、実際に学級数を増やすことはできないかと思うが、どうか。

事務局

おっしゃるとおり、現状の学級数を増やすことはできないが、例えば中学校1学年当たりの学級数は3学級が望ましいという回答が多ければ、その御意見を踏まえた基本方針を固め、この方針に向けた検討を進めることができる。そのための設問と御理解いただきたい。

委員

了解した。

委員

茨城県が、適正な学級数を示しているが、これを踏まえた提案をされているのか。

事務局

茨城県の指針は確認していない。

委員

そういった指針も確認して提案しないと、議論に矛盾が生じると思う。

事務局

他県の指針を参考とする場合もあるかと思うが、地域性もあるので、基本的には埼玉県の指針を参考としている。

委員

望ましい通学距離について何う設問の参考資料で、国が示す小学校の通学距離は「4 km以内」、通学時間は「概ね1時間以内」とあるが、設問の選択肢の一つに、「4 km（約75分）以内」とある。この違いについて何う。

事務局

通学距離は、徒歩で通学する場合の望ましい距離を示しているが、国が示す望ましい通学時間は、スクールバスや公共交通機関など、徒歩以外の通学手段も含めた時間を示すものである。

森会長

アンケートの内容については、承認を求める。

<p>(2) 適正規模・適正配置について</p>	<p>《承認》 全員異議なく承認。</p> <p>事務局</p> <p>アンケートの実施方法について、資料により説明する。</p> <p>《質疑》 なし。</p> <p>《承認》 全員異議なく承認。</p> <p>森会長</p> <p>今後、「幸手市立小・中学校適正規模・適正配置等に関する基本方針素案」の作成を進める上での参考とするため、皆さんの御意見・御要望等があれば発言いただきたい。</p> <p>《質疑》</p> <p>委員</p> <p>8月12日付けの新聞記事で、幸手市の人口が5万人を割ったとの報道があった。市の人口減少も問題だが、行幸小学校は児童数が増加しているのに、吉田・八代小学校は減少している。この違いは何なのかと考えてしまう。</p> <p>この問題は、教育審議会だけで検討するのではなく、市全体でまちおこしの検討をする必要があると思う。もっと魅力的なまちになり、かつ吉田・八代地区の農地の宅地転用を進めていければ、将来的に良い展望が見えてくるのではないかと。</p> <p>教育審議会で議論することではないと思うが、是非、教育も含めた幸手市のまちおこしを検討いただきたい。</p> <p>それから、幸手市の小学校区を見ると、さかえ・八代・吉田・権現堂川小学校で幸手市の半分以上の面積を占めていることが分かる。もし、学校を統廃合した場合、防災拠点としての役割を果たせなくなるのではないかとと思う。</p> <p>そこで提案だが、吉田・八代・権現堂川小学校は、地域に特別な繋がりがある学校なので、ここに認定こども園を設置するとともに、高齢者のデイサービス機能を付けて、地域のコミュニティステーションとして活用してはどうか。そうすることで、高齢者が孫と同じ給食を食べることができるという話題作りにもなり、幸手市への転入を希望される方が増えるのではないかと。</p> <p>それから、東中学校は、幸手中学校に統合して、八代・</p>
--------------------------	--

吉田・権現堂川小学校には、スクールバスを通す。東中学校を小中一貫校としても生徒数の増加は見込めないし、小学校を新たに建設するにも莫大な費用が発生するかと思うので、このような提案をさせていただいた。

委員

先程、行幸小学校の児童数は増加しているとの話があったが、現在は周辺に住宅の建設が進んで増加しているが、いずれ旧香日向小学校と同じ運命を辿り、子どもが成長すると市外に転出してしまわないかと思う。

それから、吉田・八代・権現堂川小学校については、前の委員と同じ考えを持っており、小学校の中に老人福祉施設を設置して、運営は民間委託にしてはどうかと思う。そうすることで、地域の活性化にも繋がるのではないか。

委員

私も先ほどの委員が発言された、農地の宅地転用の意見に共感する。教育に力を入れることも大事だが、地元で働ける企業を誘致できる土地が無いことが、幸手市の人口減少に繋がっていると思う。幸手市都市計画マスタープランを見直して、企業誘致を優先して考えないと、人口減少に歯止めをかけることは難しいと思う。

委員

以前の会議で、市内の小学校間でインターネットを活用した交流をしてはどうかという話があったと思うが、具体的な取組があれば何う。

事務局

現状では市全体として、GIGAスクール構想で整備したタブレット端末を活用した学校間の交流を行っている事例は無い。

委員

今後、インターネットを活用した交流や、子どもたちの意見を吸い上げるといった取組を実施する予定はあるのか。

事務局

今回のアンケートは、子どもたちの意見を吸い上げる貴重な機会だと思っている。

なお、毎年1月下旬から2月上旬頃に、幸手市議会の議場をお借りして子ども議会を開催しており、ここで小学校6学年の児童と中学校2学年の生徒の代表者が、クラ

スや学年から出た要望等を代表して市の執行部に質問することで、子どもたちの意見を吸い上げる取組を行っている。

子ども同士の交流については、計画にかなりの時間を要するとともに、各学校の状況等の把握も必要になることから、すぐに実行することは難しいと思う。

森会長

学校間の交流についての補足だが、市全体として実施している取組は無いが、例えば幸手中学校区では昨年、幸手・さくら・さかえ小学校の6学年が、インターネットを活用して学校紹介などの交流を行うなど、個別の事例はある。

ただし、子どもたちは、東中学校区の実情はあまり把握していないかと思う。

委員

過去には吉田・八代・権現堂川小学校を1校に統合すればよいという話もあったかと思うが、現状では統合しても東中学校の1学年が1学級にしかならないので、市全体の学校区の見直しについても、今後、この審議会でも議論できたらと思う。

先日、視察した吉田小学校では、少人数学級でありながら、教職員の工夫により子どもたちが勉強や様々な行事に切磋琢磨して取り組んでおり、競争心を芽生えさせていると感じたが、やはり子どもの人数が少ないのは、あまり良くないと思う。

委員

これから実施するアンケートで、学校の統廃合や学区の在り方の方向性について御意見を伺えるかと思うので、今後、アンケートの結果を踏まえた議論ができればと思う。

1学級当たりの上限児童数は今後、段階的に40人から35人学級になるとのことだが、個人的には40人を20人に分けて2学級にすることはできないのかと思った。

森会長

学級数は、児童・生徒の人数で決まってくる。そして、1学級当たりの上限児童数は現在、1～3学年は35人、4学年以降は40人となっており、順次35人へ引き下げられている。

そのため、例えば4学年が41人いた場合、20と21人の2学級に分かれる。また、3学年が71人いた場合は、約23人の3学級に分かれることになり、教員の目が行き届きやすくなるという実態がある。

委員

いとこの孫が吉田小学校に通っているが、現在、5学年は4人しかいないため、複式学級となっている。先日、話をしたら、もっと人数が多いほうが良いと話していた。

それから、まちづくりの話だが、幸手市が昭和29年に町村合併した時から市街地は西側に偏っていて、バランスが悪かった。交通インフラの整備の遅れが現在の状況を作っていると思う。

委員

私の娘が八代小学校の4学年に在籍しているが、学年の人数が18人である。最初、八代小学校は1学年に1学級しかないと聞いたとき、子ども同士のトラブルがあった場合にクラス替えができないので、親として少し心配していたが、現在はプラス面しか感じていないため、統合せず、現在の状態で卒業してほしいと思っている。

しかし、下の子どもが来年入学するが、知っている限りでは新入生は6人程度になるようなので、もし1学級が5人以下になってしまうと、教育面での不安や心配の方が大きくなる。そうなると、やはり統合の検討も必要かと思う気持ちもある。

ただし、防災拠点や地域との兼ね合いも勘案した方向性はまだ思いつかないので、今後、一緒に考えていきたい。

委員

以前も申し上げたが、学校運営の面で言うと、小規模校は効率が悪いと思う。また、学校行事等で若干の盛り上がりには欠ける面もあるかと思う。

しかし、学校として子どもや保護者、地域の方が満足できるような学校運営を心掛けており、満足していただいているのであれば、小規模校であっても私は良いと考えている。

私が校長を務める東中学校区の地域の方が、様々な面でサポートしてくださるので助かっているが、やはり統廃合により母校が無くなってしまうのは寂しいという話

を伺うこともある。

委員

幸手市の魅力不足とインフラ整備不足が、人口減少に繋がっていると私は考えている。

幸手市は権現堂堤を中心とした観光しかないし、インフラ整備も、例えば長倉地区は道路の幅員が4 mちょっとしかなく、交通面で非常に危険性が高い学区である。

なお先程の委員から農地転用の話があった吉田・八代地区は、調整区域の中でも農地振興のための農用地とされていることから、住宅の開発が難しい地域である。また、防災面でも水害対策で遊水地の設置が必要な地域であることも考慮しながらまちづくりを考えていかないと、魅力あるまちづくりは難しいと思う。

委員

今後、数十年経過すると西側の地域でも人口減少が進むと思うので、そうした経過も踏まえた議論が必要だと思う。

それから、今後の学校の在り方の検討に当たっては、都市計画の部署で人口を増やす取組を考えて、その上で教育委員会に投げかけた方が良いと思う。教育委員会が単独で検討しても、将来的にこれが上手くいくのか疑問に感じるところである。

委員

私は、権現堂川小学校のPTA役員を務めているので、権現堂川小学校の取組をお話する。

権現堂川小学校では、他校とは違う授業スタイルをとっており、具体的には今までの先生と児童の対面形式ではなく、子どもたちが4～5人のグループを作って与えられた問題をグループで考えて、答えを導き出すという授業を行っている。

私も数回、授業に参加したが、分からない子に他の子が教えてあげて、みんなで答えを導き出すことで連帯感が強くなり、また違った答えにもきちんと耳を傾けるという学びのスタイルが素晴らしいと思った。このスタイルだと少人数を感じさせず、むしろ先生との距離感もちょうど良いし、子ども同士も良い関係性が保たれていると感じた。

また、今年度は開校 150 周年を迎えて記念式典も行わ



れ、地域の方も喜んでいたし、子どもたちも権現堂川小学校で良かったという声を聞いている。

この審議会では小規模校の統廃合に焦点が当たりがちだと思うが、存続させるにはどうしたらよいかという視点も含めて検討できると良いと思う。

委員

安易に統廃合の検討を進めるのではなく、小規模校ならではの様々な取組にも目を向けて検討してほしい。

委員

「小中一貫した教育課程の編成・実施等に関する事例集」の提供に感謝する。ただ、私が前回の会議でお願いしたのは、小規模校を抱える自治体が、どのように解決しているか、また、統合しようとして反対事項は無かったのかという事例である。

資料の中に、検討のきっかけが児童・生徒数の減少と施設の老朽化という自治体があったので、こういった自治体のもう少し詳しい資料を提供いただけるとありがたい。

また、東中学校区を小中一貫校として検討する場合に参考となる事例もあったので、更に詳しい資料があるとありがたい。

委員

各小・中学校の運営に係る費用を示していただきたい。

やはり、税金が使われているので、予算を削減できるところは削って統廃合を進め、削減できた予算をスクールバスにまわすなど、費用対効果を考えていかないと、財政面で苦しくなると思う。

統廃合を早急に進めるのであれば、市長を呼んで方針を示していただかないと、ここだけの話になって進まないと思う。

事務局

各小・中学校の運営に係る費用については現在、施設整備課が作成を進めているので、近いうちにはお示しできると思う。

## 5 その他

### (1) 次回審議会日程

事務局

<p>6 閉 会 午後 2 時 55 分</p>	<p>次回の審議会の日程について説明する。</p> <p>日時 令和 4 年 10 月 25 日 (火) 午後 1 時 30 分 場所 市役所本庁舎 3 階 第 1 委員会室</p> <p>小林副会長 閉会を宣す。</p>
------------------------------	---

<p>他 特 に 重 要 と 認 め る 事 項</p>	<p>な し</p>
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: right;">令和 4年10月25日</p> <p>署名</p> <p style="margin-left: 40px;">       審議会会長            森        祥 一        審議会委員            小 林        学        審議会委員            細 井        孝        事務局職員            大 竹 孝 典     </p>